

EURO2020開催に関するUEFAの発表

UEFA 公式サイト UEFA2020に関するステートメント 2021/04/23 更新情報 ※開幕の45日前



●大会を有観客で開催することを決定 → 有観客で開催できないスタジアムを変更

開催予定だったビルバオ（スペイン）をセビージャ（スペイン）に変更した。ただし、ラ・リーガのセビージャのホーム（45000人収容）ではなくオリンピコ・セビージャ（60,000人収容）を使用。開催時のキャパシティは30%（＝約18,000人）。

ダブリン（アイルランド）開催予定のグループEの3試合をサンクトペテルブルグ（ロシア）に変更し、同じくダブリン開催予定のラウンド16の1試合をロンドン（イングランド）に変更。この結果、EURO2020の開催都市は12都市から11都市となった。

●各スタジアムの入場可能な観客数（フル・キャパシティに対する割合）は？

サンクトペテルブルグ（ロシア）とバクー（アゼルバイジャン）は50%、ブダペスト（ハンガリー）は100%（ただし、入場者には厳格な条件が課される）

アムステルダム（オランダ）、ブカレスト（ルーマニア）、コペンハーゲン（デンマーク）、グラスゴー（スコットランド）、ローマ（イタリア）、セビージャ（スペイン）は22%～33%

ロンドン（イングランド）は最低25%（グループDの3試合とラウンド16の1試合） ※準決勝、決勝は未定（準決勝は7月6日・7日、決勝は7月11日）

ミュンヘンは最低14,500人（この数字は全収容の約22%に相当）

●国外から開催都市に行くことはできるのか？

COVID-19に関する渡航制限は絶えず更新されている。そのため、国外から開催都市への移動の計画を立てるのは非常に難しいと思われます。

旅行中の入国に関する制限と要求される必要書類等に注意してください。チケット所有者に対する免除は一切ありません。これには、検疫義務、COVID-19検査の陰性証明、滞在日数の制限等が含まれます。場合によっては開催国への入国が認められないことがあります。

●ハンガリー、アゼルバイジャン、ロシアは特別な手順は設定されている

チケット所有者がブダペストへ渡航する場合は検疫が不要となります。ただし、COVID-19検査の陰性証明が必要です。

非居住者が国外からバクーへの渡航することは許可されません。ただし、トルコ、スイス、UKおよび準々決勝出場国の市民または居住者で、かつチケット所有者は別途VISAを取得することができ、COVID-19検査の陰性証明を提出することで検疫が特別に免除されます。

サンクトペテルブルグの試合のチケット所有者も同様に免除されます。追加処置として、ブカレスト（ルーマニア）への渡航において、3日未満の滞在で、かつCOVID-19検査の陰性証明の提出により検疫免除の優遇処置が得られるようになる予定です。

●スタジアムでの規制（安全と感染対策）はどうか？

我々（UEFA）の最優先事項はすべての方への安全なEURO大会の提供です。感染リスクを減らすことは我々が共有する責務であり、新たないくつかの規則を設定しています。

チケット所有者は各スタジアム到着時に30分程度の入場チェックを命じられます。また、常時マスクの着用が必要となります。他にも検温とCOVID-19の簡易検査が必要となりますが、各スタジアムにおいて多少の違いが生じるでしょう。